

「第1回北九州市成長戦略会議」で出された構成員意見への対応状況について

構成員の発言要旨	市の考え方・対応	
- ものづくりの専門人材が不足している。 - 他分野を学んだ人が、各分野の需要に応じてリスクリングすることが重要。	R 7 予算対応 (新：北九州リスクリングキャンパス事業)	R 7 新規事業として、リスクリングキャンパスにおいて、各分野の企業・就業者のニーズに応じた座学プログラムを提供。
- 外国人材は、子息の教育環境を重視しており、北九州市は他都市と比較して、魅力に欠けると言われる。 官民が連携して支援する体制を整え、教育や住まいに係る市の施策があると、外国人材の活用が進む。	R 7 予算対応 (拡充：外国人材活用の普及・啓発事業)	外国人就業サポートセンターにて、企業からの専門相談に対応。R 7 に外国人材雇用先進企業の視察会を新規実施予定。 ※引き続き、関連部署が連携して、外国人市民に対して教育や住まいに係る市の施策を丁寧に紹介。
水素ビジネス参入に向け、素材追求を進めるため、 専門・大学を紹介して欲しい。	対応済	環境局グリーン成長推進課にて、大学等を紹介。
- インバウンドは国によって、嗜好が異なるため、それに対応できる観光ガイドの育成が必要。 - 多言語対応の看板やサイトを充実させることも重要。	R 7 予算対応 (新：インバウンド高付加価値旅行推進事業)	R 7 の新規事業として、多言語対応で広域的な案内ができるスルーガイドや地元観光事業者を育成し、インバウンドの受け入れ体制を強化。
- 北九州市の関係者と「中堅企業でIPOを目指すのも良いのではないか」と議論をしている。 - 上場の際し、管理部門の人材を充実させる必要がある。	R 7 予算対応 (拡充：「未来を担う地域中核企業」成長促進プロジェクト)	R 7 に地域中核企業への支援を強化し、今後、企業シーズを踏まえながらIPO等に関するセミナーの開催を検討。また、新規事業創出など、成長に向けた伴走支援や補助金を創設。
インターンシップ等は、若い世代の心に突き刺さるものがある。	R 7 予算対応 (拡充：北九州ゆめみらいワーク事業)	早い段階からのリアルな職業体験は重要であることから、学生向けのインターンシップに加え、R 7 はゆめみらいワークを拡充し、キッザニア監修による体験の充実を図る。
産業用地を増やすため、 用途地域変更の権限を県から北九州市に移譲し、スピード感を持って対応できないか。	対応不可 代替策で対応済	- 都市計画法にて、区域区分の決定権者は県（指定都市区域内に限られる場合は指定都市）と規定。 - 市に権限があるものの、スピード感をもった産業用地確保のため、地域未来投資促進法を活用した産業用地創出に向けた取組を進めており、具体的な法手続に着手済。 (市街化調整区域の開発、農地転用)